

白亜日報

BC 64,997,993 年

10月4日

白亜通信社

主な記事

特報 恐竜は絶滅するの
隕石はどこから来たのか
新・鳥類たちの暴走
大陸のゆくえ

3734 3 22

巨大隕石が衝突

ユカタン半島北部 直径10キロ?

直径10キロ?

地球に衝突した巨大隕石について、北海道大学のニッポノサウルス教授は昨日の記者会見で、衝突地点はユカタン半島付近、直径は十キロメートルに及ぶとの見解を発表した。現場一帯では依然として激しい森林火災が続いており、付近の生物はほとんど死滅したものとみられる。また、隕石衝突により発生した高さ百〜二百メートルの噴煙が、赤い

隕石の衝突地点



(2007年の地形)



炎に包まれて落下する隕石 (共電通信)

最近、海のプランクトンが激減しているらしい。このことよって海が酸欠状態になってしまふ可能性があるという。この問題について、北海道大学のモサワウルス准教授にインタビューを行った。プランクトンがほとんど減っているそう

天変地異 海の酸欠がなくなる?

第3回

最近の調査でプランクトンの死が海の底に堆積している。この大量のプランクトンの死がい分解する

ために水中の酸素が一気に消費されて、海が無酸素状態になるのではと考えています。

光合成の過程で酸化シメチル(白硫)という物質をだしています。この物質は水中で水蒸気が凝縮し、雲ができる。植物プランクトンがいなくなり、空気が供給されなくなると、空の雲がなくなってしまうかもれません。

暗黒時代 到来か

地球全体に暗黒の世界が広がっている。隕石の衝突によって舞い上がった粉塵が地球を覆っているため、太陽光が遮られているのだ。この暗黒状態は少なくとも数ヶ月は続くとも推測されている。太陽の光がなくなることで、気温の低下や、光合成を行う植物が枯れてしまうことによる食料不足が懸念されている。毛皮を着こんで寒さ対策は万全という、哺乳類のトリコノドン氏はこの事態に対して「食料がもつかが心配。恐竜のように燃費が悪いやつらはひとたまりもないだろう。」と、足早に木を駆けのぼっていった。爬虫類のヨコビガメ氏は「我々は冬眠するという手段がある。隕石の熱で蒸発した水蒸気のせいであ

酸性雨が降るとい噂もあるし、これから海のやつらは大変だ。」とつぶやいて池の中に消えていった。暗黒状態の長期化を視野に入れた対策が生死を分かたつことになりそうだ。

アモナイト 謎の失踪

名門であるが故の保守的な態度が変わり行く環境への適応の足かせとなっているのかもしれない。

三億五千万年前に登場して以来、世界中の海で繁栄してきたアンモナイト。後に一千万種を越えるというこの華麗なる一族の姿が今、消えつつあるという。一説によれば、失踪の理由は一族が誇りとしてきた渦巻きの殻のせいかもしれない。重い殻を背負っているはずなのに動きがでさなくなるため、イカやタコとの食料争いに勝てなかつたのではないかと

5日朝刊体みます

たのではないかと。ことだ。他にも、長きに渡る繁栄なかで遺伝子に有害な突然変異が蓄積しており、その影響が無視できないものになっているはずだという専門家もいるが、真相は謎である。いずれにせよ、

天気 急激な環境の変化に注意

4日は地球全体で雷を伴った大雨となる。また、昼間でも暗く冷え込む日が続く見込み。衝撃に誘発されて地震や噴火が各地で起こることが予想されるので十分な注意が必要。

北海道大学 21世紀COEプログラム 新・自然史科学創成 国際シンポジウム開催記念
サイエンスカフェ「地球と生命が織りなす自然史」

日時：2007年10月4日(木) 午後6時~7時45分
場所：Sapporo55ビル1階インナーガーデン
主催：北海道大学 21世紀COEプログラム 新・自然史科学創成
共催：北海道大学 科学技術コミュニケーション養成ユニットCoSTEP

ゲスト： 鈴木陽行(すずきのりゆき)さん

北海道大学大学院 理学研究院 自然史科学部門 地球惑星システム科学分野 教授
宮城県塩竈市・多賀城市出身
中京時代は水泳部(平泳ぎ)、大学時代はヨット部
学生時代にエネルギー資源の研究、「石油の成因」解明に挑戦
北海道大学 理学研究院 自然史科学部門 地球惑星システム科学分野 教授
現在、有機地球化学、埋蔵科学を研究

子育てで恐竜
オビラプトル
真の愛
親子愛とは
昆虫と花の
愛憎劇
流行の羽毛
注目
カラ

週刊古代